小規模校のよさを生かし、問いを協働で解決する喜びに満ちた授業（２年次）
― 学びをつなぐ単元構想図 ―

田村市立都路小学校　教諭　岡﨑　千夏

１　研究の趣旨

新学習指導要領で目指す授業改善には、「各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせ、知識を相互に関連付けたより深い理解」や「問題を見いだして解決策を考え、思いや考えをもとに創造することへ向かう過程を重視した授業の充実」が求められている。

本校では、生活科・総合的な学習の時間の研究実践（～H30）による主体的に学ぶ意欲に満ちあふれた児童の姿を他教科においても継承し、自らが問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学習スタイルを充実することによって、児童は将来の問題解決につながる学び方を身に付けることができると考え、令和元年度より本研究をスタートさせた。

そこで、２年次の研究では、研究教科を国語科、算数科、理科の３教科とし、各教科での問題解決的な学習を実践し、学びの深まりや広がりを実現するための単元構想図の工夫を中心に、単元を通した実践的な研究を目指すことにした。

２　研究の概要

(1)【手立て１】学びをつなぐ単元構想図

児童が主体的かつ協働的に問題解決していくために、単元全体を見通して、見方・考え方を働かせた児童の問いや学びの姿を予想し、３教科の特性に応じた問題解決学習展開や本時の問いが次時の授業につながる学習展開を単元構想図に表す。学びをつなぐ単元構想図は、次の点を重点にしてワンペーパーで構成する。

①　強い目的意識のある単元を貫く、または小単元ごとの問いの設定
②　問いの焦点化や追究の見通しの可視化
③　次時の学びにつながる家庭学習や他教科との連動

(2)【手立て２】学びをつなぐ「重ね学び」

学びをつなぐ単元構想図による授業では、児童自らが学びを振り返り、関連付け、より深い学びとすることが必要である。小規模校のよさを生かしたフレキシブルな学習形態により、他者との対話と自己内対話を繰り返しながら学びを振り返る「重ね学び」を、次の点を重点として実践する。

①　様々な対話スタイルによる「重ね学び」
②　振り返りの視点の明確化
③　授業者の問い返しによる価値付け

３　成果と今後の課題

(1) 研究の成果

○　単元全体を見通した問いの焦点化や学びのつながりを明確にした単元構想により、主体的な学びの姿を育てることができた。
○　問題解決学習を成立させるためには、「単元構想に合わせた貫く問いの設定」「終末の問いと家庭学習の連動」「カリキュラムマネジメント」が必要であることを見いだした。
○　「重ね学び」による対話を繰り返したことで、考えの更新や深まりが見られた。

(2) 今後の課題

○　場面を捉えた教師の的確な問い返しや関わりが、充実した対話の実現に必要である。
○　児童の学びを深く、広く発展させるために、カリキュラムマネジメントを生かした単元構想の工夫を継続していきたい。